

宝塚市自立支援協議会 専門部会「けんり・くらし部会（地域生活グループ）」

令和元年度活動経過報告

I. 開催日時	【専門部会】	第1回	令和元年6月28日(金)	出席者	9名	14:00～16:00
		第2回	令和元年8月9日(金)	出席者	9名	13:30～15:30
	【ワーキング】	第1回	令和元年8月23日(金)	出席者	10名	13:30～15:30

II. 要旨

第1回けんり・くらし部会（地域生活 Gr）（01.06.28）

1. 自己紹介

部会長は前年度から続投とする。

新任委員並びに事務局の担当者も併せて紹介。

2. 自立支援協議会とは

3. 宝塚市自立支援協議会全体会について

協議会の設置要綱ならびに運営要綱を基に自立支援協議会と部会との関係性について説明を行った。本部会においては「地域生活をする上で困っていることについて」をテーマとし、当事者の困りごとを取り上げ、改善できることや工夫すべきものを協議していく。

【挙げられた課題】

・親亡き後 ・卒業後の進路 ・公共施設利用に関する設備 等

4. 前年度の振り返り

「地域生活をする上で困っていること」をテーマに当事者からの経験談や思いの聴き取りを行うと共に、具体的な課題について例示し意見交換を行った。

【挙げられた課題】

・医療的ケアに対応できる放課後等デイサービス・日中一時支援・生活介護の充実
・サービス支給量に関する事 ・知的障害者、親の高齢化に対応するための共生型グループホーム
・高齢になった知的障害者の受け皿 ・精神障害者の地域移行、居場所づくり
・共生型のグループホーム

昨年度の課題解決シートや当事者の声、抱えている事例から課題を出し、優先順位をつけた上で課題解決に向けて協議していくのはどうか。

5. 今年度の部会のテーマについて

地域生活をする上で困っていること

課題を各委員から持ち寄ってもらい、この場で共有し、今からでも取り組めるものに優先順位を付けていく。結果が出ないと取り組んでも辛いという意見もあるため、形にできるものを考えていきたい。委員が協力し合ってできることを考えていき、全体会に返していきたい。次回の部会の案内文とともに、意見を記入するためのペーパーを送る。その結果を集約し、次回の協議に活かしていく。

6. 年間スケジュールについて

次回以降8月・10月・12月・2月の予定で開催

7. その他

委員よりデイサービスに関するクラウドファンディングの告知

第2回けんり・くらし部会（地域生活 Gr）（01.08.09）

1. 前回の振り返り

2. 協議

今年度のテーマ『地域生活をする上で困っていることについて』に関する意見交換

【挙げられた課題と内容】

- ・ニーズの把握について（相談支援事業所に聞き取りを行う）
- サービスに関連する課題…政策提言や要望等は本部会では議論しない。
- サービス以外の生活に関する課題…「身近に出来ること」に着目し本部会で議論。
- ・地域とのつながり（交流・集い・参加など）
- 就学決定にあたって 少し前…地域の学校と支援学校を選択できた。
- 最近…支援学校への進学を強めに促される。
- スポーツ・文化活動を通じて障害の有無を問わず交流できる機会がある。
- ・地域での安定した生活
- 医療との連携…少し調子を崩した際の受け皿などがあれば助かる。
- 不安になった時の居場所…障害のある人だけでなく安心できる居場所は有効。
- ※ショッピングモール等も含め新たな資源を開発したい。
- ※『孤独な人が事件を起こす』ということも言えるのではないかと。
- ・人とのつながり
- ソーシャルネット（ゲーム含む）を通じて共通の関心ごとでつながる人もいる。
- ※リアルな対面がない=障害の壁がない

【これから取り組みたいこと】

- ・情報（参加・集い・交流・居場所・つながり先の方法）を知らせたい&集めたい
- ・生活の便利（やっていること・医療の拠り所・コミュニケーションツール）を考える
- ・考える&確認する（医療機関間連携・日常的な参加や交流の場）
- ・障害に対する理解を広める（手をつなぐ育成会によるすみれ隊・講演など）
- ・相談支援事業所からの聞き取り（サービス内のニーズ&サービス外でのニーズ）

第1回ワーキング(01.8.23)

1. 精神障害の方が利用できる社会資源に関する冊子作成について

今年度はワーキング開催までにリーダーと事務局で昨年度の協議内容の整理を行い、リカバリーストーリー作成のため、精神障害のある方2名にインタビューを実施した。別途、ワーキングの当事者委員に依頼したものと合わせて3名分のリカバリーストーリーを作成している。その上で、リカバリーストーリーの校正と冊子に掲載する退院までのフローやQ&A集、相談窓口一覧表等を盛り込んだ冊子原案を作成した。

(1) 冊子原案についての意見交換

<意見交換の主な内容>

- 原稿が縦書きなら、右開きにすると見やすい。
- リカバリーストーリーの字体、フォントがバラバラなので最終的には統一した方が良い。
- 生活に関すること…生活上起きうるトラブルを例示し、「こんな時どうする」という情報もあった方がよい。
- 原案の表紙は宝塚の地形をイメージしたものだが、フリーで使用できるデータはあるのか。
- ⇒使えるデータが無ければ、この表紙のようにトレーシングや手書きでも良いだろう。
- リカバリーストーリーの前に、前書き（説明）があった方がよい。
- 相談窓口一覧表の説明が堅苦しい文章。当事者や家族にわかりやすい説明にしてほしい。
- 退院してからの生活のページもシンプルに短く、わかりやすい表現にしてほしい。
- 例) 服薬管理をしてくれる⇒面倒くさい薬をまとめて見てくれる
- 健常者と向き合いたくない⇒顔を合わせたくない
- 孤独で話し相手がいない⇒寂しい。友達がほしい。
- 表紙裏のリード文の一文目が「こころの病気にかかった人…。こころの病気によって人との関係がこじれて立ちいかなくなった…」という文章がマイナスな表現で寂しく感じる。
- 病気にかかりたくてかかった訳ではなく、こじらせたい訳でもないので文章で見ると当事者としては寂しい。ポジティブなメッセージに変えて、精神疾患だからといって人生は終わりじゃない、諦めるなという

ような一文も入れてほしい。

○「薬が合わないがどうしたらよいのか」という声は多いので、対処法をQ&Aに入れてほしい。

○一問一答ではなく、大きなテーマ(Q)ごとにAがあるとわかりやすい。

分かりやすくするため、Qを「こうしたい」という書き方に、Aも話し言葉などの砕けた感じにしてはどうか。

○本人が自分で必要な情報を書きこめるマイページが1ページあるとよい(あすなる相談支援事業所で作成した「不安を乗り越えて」も参考になる)。

⇒マイページに支援者の名刺を貼りつけていくのはどうか。

⇒困ったことを書き、その横に相談・対応できる方法の記入や支援者の名刺を貼りつけるとより分かりやすい。

○相談窓口一覧表には、委託相談支援事業所や保健所、「いのちの電話」以外にも相談(電話相談も含め)できるところを書いてほしい。「ぼちぼちくらぶ」や「兵家連」など。

○専門機関よりも本人・家族にとってハードルが低く相談しやすいところとして、当事者・家族グループの情報は相談窓口一覧の最初のページに持ってきてほしい。

○マイページは白紙よりは、マスを作ると記入がしやすい。8マス作っておけば、主治医や訪問看護、福祉担当者等の名刺を貼ることができる。プラスして自由記述できるページを設けておけばよいのではないか。

○冊子のタイトルも検討しないといけない。現状は仮タイトルとして「精神障害の方が利用できる社会資源に関するリーフレット」となっている。

⇒「心の病を経験したら…」、「ほっと宝塚」というタイトルはどうか。

※今後の対応として

意見交換の内容を踏まえ、リーダーと事務局で冊子の原稿の修正や追記を行っていく。

冊子の内容やタイトル等の検討は各委員への依頼事項として、事務局より連絡を行う。

例えばQ&Aや相談窓口の紹介文など、当事者や家族にとって分かりやすい書き方についても、各委員に検討を依頼し事務局にて案を集約する。